



南部町立南部中学校 学校だより 第6号

千一ム南部中

令和2年 7月14日 (火)

校長 望月和彦

より良い授業を目指して！

学校では、朝・帰りの会、部活動の時間、学園祭や校外学習などの学校行事、給食や清掃の時間、友だちと遊んだりおしゃべりする時間など様々な時間があり、そのどれも生徒たちにとって大切な成長する場になっています。しかし、学校生活の中で最も多くの時間は何か。当然ですが「授業」の時間です。この授業の時間を生徒たちがどのように感じているかが、学校を楽しんでいるか、そうでないかに大きく関わっています。授業の学習内容が全くわからなかったり、授業で学ぶ意味がわからなかったりしている生徒にとっては、授業はとても苦しい時間でしかないはずです。反対に、新しいことを知識や技術、考えや気持ちを身につけることができたり、授業で学んだことが自分の生活に役立つことを感じられる生徒は、授業が楽しみになったり、意欲を持って授業に参加できたりすることになります。生徒たちの学校の楽しさには、部活動や学校行事、友だちとのおしゃべり、中には給食だと答える生徒もいるかもしれませんが、一番多くの時間は「授業」ですから、できるだけ多くの生徒が授業が楽しいと感じられるようになってもらいたいです。

そのために、本校では校内研究会という組織を使って、より良い授業づくりに取り組んでいます。生徒にとって、「わかる授業」「楽しい授業」はどうあるべきかをみんなで考え、意見交換しながら授業のプランを協力してつくり、担当者が授業（研究授業）をやってみます。他の教員はその授業を観察し、授業後に研究会を開いて、良かったこと、悪かったことを出し合いながら、次の授業ではここを改善してみようとして取り組んでいます。今年度は、峡南地域の中学校に新しく採用された新人教員の実習校に本校は指定されました。その研修会もかねて5回の授業研究会を計画しています。

6月26日には最初の研究授業があり、遠藤浩正教諭が学級活動の授業を行いました。「ストレスと上手に付き合おう」というテーマで、ストレスとは何か、自分自身でも感じることもあるか、その原因は何か、自分はどんなタイプでどんな対処法をしたら良いかを、グループや全体で意見交換しながら考えていく授業でした。自分のストレスの経験や原因を友だちと話し合ったり、これまでのストレスの対処方法をグループで出し合う中で、自分に合うより良い対処法を考えていました。コロナによる活動の自粛や行事



の中止があったり、進路選択や受験を考えなければならなかったりする3年生にとっては、とても大切な時間になっていたようです。授業を参観した新人教員からは、話し方や聴き方などの学習規律がきちんとできていて、自分の考えや気持ちを素直に表現し合える学級の雰囲気素晴らしかったとの声がありました。

7月10日には2回目の研究授業があり、岩崎真也教諭が理科の授業を行いました。「密度」についての学習でした。授業が始まると岩崎教諭の「たすけてくださ〜い」との大きな声。グループごとに正体不明の謎の物質が配られ、岩崎教諭は「理科室にあったこの物質の正体を調べて欲しい」という2時間の授業の目標を生徒に話しました。そして、ワークシートが配られ、書かれている次の3つの課題に生徒たちは取り組みはじめました。①密度という言葉の意味 ②密度を求めることが物質を見分ける手がか

りになる理由 ③密度を求める問題が解ける（さらには問題を自作する）解決に向け友だちと相談したり，わからない生徒がわかる生徒から教えてもらったり，普段からそうした活動を授業で繰り返してきた生徒たちは，誰一人としてあきらめることなく最後まで取り組めていました。参観者からは，1年生にとって中学校の授業は5月末に始まったばかりなのに，学び合いの活動がスムーズにできていて，みんなで目標を達成しようとしている姿に感激しましたとの話を聞くことができました。



2つの研究授業には県教育委員会からそれぞれ2名の指導主事が指導・助言に来てくださり，授



業の良かった点とともに，改善できる点，今後の授業づくりに向けてのアドバイスを頂くことができました。

今後も，本校教員は「わかる授業」「楽しい授業」づくりに力を入れていきます。教員が努力しなければならないことは当たり前ですが，生徒の皆さんにも学校生活を楽しむための努力をして欲しいと思います。学校を楽しむには，授業の内容がわかること。そのためには，宿題をきちんとやってきたり，予習や

復習などの自主学習に積極的に取らざること，わからないことをそのままにせず，「わかりません。教えて。」と言えることが大切です。校歌の冒頭にあるように「わからないなら問いかける失敗したらやりなおす」です。

前期学級役員と自転車安全利用推進リーダー

始業式は2・3年生のみ，入学式は1年生と保護者のみ，給食は学年ごとに別の場所で食べ，生徒総会議案書は学級ごとに検討し代表委員会で議決するなど，新型コロナ対策で全校生徒が一箇所に集まったことは避難訓練だけでした。部活動なども徐々に通常通りに行える流れの中で，7月3日の朝，今年度初めての全校集会を体育館南側のウッドデッキで行いました。目的の一つ目は，全校生徒の前で前期の各学級のリーダーである学級会長・副会長に認証状を渡すこと。二つ目は，今年度本校が南部警察署より自転車安全利用推進校に指定されたことを全校生徒に知らせ，生徒会役員に推進リーダーの委嘱状を渡すことでした。8時20分開始の集会でしたが，3分前には全校生徒がマスクを着用して距離間隔を広げて整然と並んでいました。「おはようございます」のあいさつ，人の話を聞く姿勢と視線，代表者を讃える拍手，たった13分程度の内容でしたが，とても立派な態度でした。全校生徒が初めて一堂に会することができたことに喜びを感じるとともに，今後も155名の生徒たちが健康に充実した学校生活を送っていけるよう心の中で祈りました。



地域の方々や町のおかげで，快適な環境に（その2）

富河地区にお住まいの望月由美さんが，校舎北玄関に生徒たちのために綺麗な生け花を飾ってくれました。望月さんは本校卒業生の保護者で，富河中学校時代から毎年生徒たちのためにこうした活動を続けてくれています。本当にありがたいことです。



万沢小学校の閉校に伴い，万沢小で使っていたアップライトピアノ1台をいただくことができました。オルケホールに設置しました。先日は久しぶりに3年生のきれいな歌声を聞くことができました。

